

1. 件名：新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（東海第二（974））

2. 日時：平成30年5月23日 13時30分～15時35分

3. 場所：原子力規制庁 9階D会議室

4. 出席者

原子力規制庁：

（新基準適合性審査チーム）

山口安全管理調査官、角谷安全審査官

（技術基盤グループ シビアアクシデント研究部門）

堀田統括技術研究調査官

事業者：

日本原子力発電株式会社：発電管理室 技術・安全グループマネージャー（他5名）

5. 要旨

（1）日本原子力発電株式会社から、本日の提出資料を用いて、格納容器破損防止対策の有効性評価のうち溶融炉心・コンクリート相互作用（コリウムシールド高さ）について説明があった。

（2）原子力規制庁から、主に以下の点について指摘を行った。

- 評価で用いている溶融物量は、推定される原子炉圧力容器破損時のデブリ流出状況を踏まえたものとなっているのか整理して説明すること。
- デブリの堆積高さの感度解析は評価の軸（堆積体積、堆積形状）が明確となるよう整理すること。
- 床ドレン配管の制限弁への影響評価として、定性的な評価ではなく定量的な評価を示すことを検討すること。

（3）日本原子力発電から、本日の指摘等について了解した旨の回答があった。

6. その他

提出資料：

- ・東海第二発電所 重大事故等対策の有効性評価 審査会合における指摘事項の回答
- ・溶融物量として考慮する制御棒駆動機構の設定について